



CRN 設立 10 周年記念
国際シンポジウム

東アジアの子どもたち

わが国で出生率の低下が目立って約20年。
少子化は、子どもの成長・発達にどんな影
響を与えているのか。

本シンポジウムは、文化的に共通項の多い
東アジア各国から研究データを持ち寄り、
広く「子ども学/Child Science」の立場から、
少子化社会における子どもの育ち、育て方
について検討する。

子どもの数の多寡に関わらず、子どもは幸
せに育つ権利がある。子どもの視点に立っ
た少子化社会をともに考えよう。

「子ども学」から見た 少子化社会

「子ども学」から見た



日本語・英語・中国語（同時通訳）

午前
の部

開会の挨拶

小林 登 (CRN 所長・ベネッセ次世代育成研究所所長)

特別講演

「子ども——「人間の未来」のモデル」大江 健三郎 (作家・ノーベル文学賞受賞者)

基調講演

「中国の「脳科学と教育」——子どもの認知発達に関する研究」章 鈺 (工学博士・中国工程院院士)

午後
の部

パネルディスカッション

「子どもの成育環境としての少子化社会を考える ～日中韓の研究を中心に～」

コーディネーター 榎原 洋一 (お茶の水女子大学教授)

李 根 (梨花女子大学附属病院教授)

パネリスト 原田 正文 (大阪人間科学大学教授)

周 念麗 (華東師範大学副教授)

朴 正漢 (テグ・カトリック大学教授)

日時 2007年2月3日(土)
10:00～16:30

会場 ウ・タント国際会議場
(国連大学ビル3F)
*東京メトロ表参道駅下車徒歩8分

入場 事前登録制。先着順。
無料 定員(300名)になり次第締切

<http://www.crn.or.jp/sympo07/index.html>

チャイルド・リサーチ・ネット (CRN) とは…

1996年に(株)ベネッセコーポレーションの支援をうけ設立されたインターネット上の「子ども学/Child Science」研究所。所長は小林登(東京大学名誉教授、国立小児病院名誉院長)。日本語、英語、中国語のホームページを持ち、子どもに関する調査データや研究レポート、読み物、イベント情報などを提供。「子ども学」は、文理融合科学であり、科学のもつ厳密さや実証性ととも、子育て・教育現場で活用ができる実践科学の側面も兼ね備えたいと考える新しい学問。



主催：チャイルド・リサーチ・ネット (CRN)
共催：(株)ベネッセ次世代育成研究所、(株)ベネッセコーポレーション
後援：中国大使館、日本子ども学会、日本赤ちゃん学会

東アジアの子どもたち



「子ども学」から見た 少子化社会

（お申し込み方法）

参加を希望される方は、インターネットが往復はがきにて、下記の事務局宛にお申し込みください。1月下旬に参加票をお届けします。なお申し込み多数の場合は先着順となりますので予めご了承ください。

●インターネットからのお申し込み

シンポジウムのホームページから直接お申し込みください。

<http://www.crn.or.jp/sympo07/index.html>

●往復はがきでのお申し込み

お名前、ご住所、メールアドレスかお電話、ご職業を明記の上、下記の事務局宛にお申し込みください。なお、お送りいただいた個人情報は当シンポジウムに関する目的以外には使用いたしません。

（お問い合わせ）

CRN国際シンポジウム事務局

〒101-8685 東京都千代田区神田神保町1-105
神保町三井ビルディング15F
(株)ベネッセ次世代育成研究所内

TEL:03-3295-0293

*10:00~12:00、14:00~17:00

(土日祝日、12/27~1/4を除く)



大江 健三郎

Kenzaburo Oe

作家。1935年生まれ。東京大学文学部仏文科在学中に作家としてデビュー。その後、数多くの小説、評論、随筆を発表。1994年ノーベル文学賞を受賞。



章 鈺

Yu Wei

中国工程院院士。1940年生まれ。工学博士。中国科学協会副主席、中国電子学会副理事長、元中国教育部副部長。長年電子学の研究に従事し、生命工学、バイオエレクトロニクスの分野では国際的にも早く研究に着手し、論文発表は300編を超える。近年は中国式(learning by doing)の科学教育改革の研究をし、東南大学学習科学研究センターを設立。脳科学の研究成果を教育の実践に取り入れることについて研究している。



榊原 洋一

Yoichi Sakakihara

お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター チャイルド ケア アンド エデュケーション講座教授。医学博士。小児科医。1951年生まれ。東京大学医学部を卒業後、同大学付属病院小児科医長として発達障害をもつ子どもの医療に携わりながら、発達のメカニズムを研究する。2004年より現職。『はじめて出会う育児の百科』(小学館)など多数の著書がある。



李 根

Keun Lee

梨花女子大学附属東大門病院小児科教授。医学博士。小児科医。梨花女子大学医学部卒業、ソウル大学にて学位を取得。ニューヨーク医大附属病院など米国の複数の大学病院にて研修、ニューヨーク州サガモア小児病院にて勤務後、1976年より現職。韓国母乳医学学会会長。日本の赤ちゃん学、母乳哺育学にも関心が高く、学会出席のため来日多数。



原田 正文

Masafumi Harada

大阪人間科学大学大学院人間科学研究科教授。理学博士。精神科医。1945年生まれ。大阪大学医学部を卒業後、大阪府に勤務。「大阪レポート」の基礎となる調査の統計分析、保健所を拠点にした心の問題を抱える子ども達の支援システムづくり、グループ子育ての支援活動などに取り組む。池田保健所長を経て、2001年より現職。『子育ての変貌と次世代育成支援—兵庫レポートにみる子育て現場と子ども虐待予防—』(名古屋大学出版会)など多数の著書がある。



周 念麗

Nianli Zhou

華東師範大学副教授。心理学博士。華東師範大学学前教育学系心理教育研究室主任、乳幼児心理発達実験室主任。主な研究分野は乳幼児の心理と教育。主な著書に『自閉症の子どもの社会認知—理論、実験と介入についての研究』(上海教育出版社)など。「幼児の感情制御と親子関係の関連研究」(日本文部科学省との合同プロジェクト)を担当している。



朴 正漢

Jung Han Park

テグ・カトリック大学医学部長・教授。医学博士。保健学博士。1945年生まれ。慶北国立大学医学部を卒業後、ジョンズ・ホプキンス大学公衆衛生学大学院予防医学講座にて学位取得および研修。現在、韓国予防医学会理事・会長、高齢化社会・人口政策大統領諮問委員会委員、WHOリプロダクティブヘルス研究科学技術諮問グループ委員など数々の要職に就いている。